

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒 ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導に徹する。
- (2) 知・徳・体の調和を図り、各教科等において基礎・基本、体験的な学習や課題学習、個に応じた指導を重視し、自ら学ぶ態度を育成する。
- (3) 道徳教育・人権教育・国際理解教育の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力を醸成する。
- (4) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (5) 緑に恵まれた環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (6) 教職員の働き方改革に向けて、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫や IT を活用した業務の効率化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営・・・思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- (2) 学習指導
 - 国語科、算数・数学科、外国語活動・英語科を中心として、9年間の指導の系統性を生かした表現力の育成
 - 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と根気強く学習に取り組む生徒の育成
- (3) 児童生徒指導
 - 基本的生活習慣の定着
 - ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
 - 健康教育及び安全教育を推進し、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- (5) 勤務時間を意識した働き方の推進
 - I Tを活用して業務の効率化を図るとともに、日課を工夫して生徒と向き合う時間の確保

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	○A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒会学習委員会の活動による、自主学習ノートの展示やテストの予想問題作成等を通して、学習意欲の向上を図る。 ② 授業において、小グループなどで生徒が話し合いや発表する場面を設定するなどの学習形態を工夫する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.1%（昨年度より 2.7 ポイント↑）で目標を 9.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 自主学習ノートや定期テストの予想問題作成を引き続き継続するとともに、生徒の学習に対する取組の良さに評価を与えるようにする。また、生徒が活躍する授業となるよう、話し合いや発表の場を多く設定する。
	○A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 道徳の授業で、思いやりについて考えさせ、実際の生活で思いやりの心を態度で示すようにさせる。 ② 授業にグループ活動を取り入れ、話し合いの場を設定し、他者の考えに触れ、尊重する意識を高める。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.8%で目標を 7.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 道徳の授業、給食活動や清掃活動などのグループ活動で思いやりの心の育成を継続する。 新たに、学校行事などの事後指導では、振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さに気付けるようにしていく。
	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 75%以上	① 生徒会中央委員会や生徒会学年委員会の活動などの、生徒の自主的な活動を掲示物等で周知していくことで、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させ、基本的な生活習慣の徹底を図る。 ② 教師が決まりやマナーをしっかりと守り、生徒の模範として行動することにより、生徒の規範意識を高めていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.9%（昨年度より 10.2 ポイント↑）で目標を 18.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 保護者の肯定回答率が市の平均より 1.3 ポイント下回っているため、生徒が決まりやマナーを守って生活できている状況を、各種たよりや保護者会などを通して積極的に伝えていく。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒会を中心とした、あいさつ運動を週 1 回実施する。 ② 教師からあいさつを率先して行うことで、生徒のあいさつへの意識を高める。 ③ 学級における朝のあいさつ、授業開始時・終了時のあいさつを徹底する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 95.3%（昨年度より 7.9 ポイント↑）で目標を 15.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒のあいさつの習慣化がなされてきたので、今後もこれらの取組を継続していく。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 将来の目標に近づくために、学習には計画的に取り組ませ、テスト後は結果についての振り返りを行って知識を深めさせる。 ② 学級活動で様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.4%で目標を 9.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、学級活動で自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習にも計画的に取り組ませる。
	○ A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 75%以上	① 保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について伝える。 ② 朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、健康や食生活に対する意識を高める。 ③ 実技や実験を伴う授業において、安全に配慮するよう指導する。 ④ エアコンの適切な運営や熱中症計の設置、冬季には加湿器の設置を行い、熱中症や感染症の予防に努める。 ⑤ 避難訓練を年 2 回行い、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 94.9%で目標を 19.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強調週間を設けたりして食生活に対する意識を高めていく。 エアコンの適切な運営や熱中症計の設置により、熱中症の予防に努める。 うがい・手洗いの徹底を図り、感染症予防に努める。 年 2 回の避難訓練を実施し、災害や防災に関する意識を高める。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 地域の成り立ちや祭の意義を理解させ、ボランティア活動や祭に進んで参加できる態度を育てる。 ② 学級活動で、自己を見つめ、自分たちが社会のためにできることは何か考えさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.4%で目標を 9.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、学級活動や生徒会活動で自分たちが社会のためにできることは何かを考えさせ、地域の活動に進んで参加できるようにさせる。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語の授業の最初に Q&A を取り入れ、Warm-up に使う。 ② ALT との授業の際、Basic Dialogue を使って英語でコミュニケーションを取る場の設定をする。 ③ クラスルームイングリッシュを多くの場面で使い、なるべく指示を英語でする。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 84.1%で目標を 4.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 英語の授業において英語を使ってコミュニケーションを行う場の設定を多くする。 ALT との生きた英語に触れるの会話活動の機会を増やす。 Warm-up に英語での Q&A を取り入れる。 基本文を使った提携例文を用いた対話練習を繰り返す。 指示語を繰り返し使うことで、英語での指示を定着させる。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 百人一首大会を盛り上げ、積極的に総合的な学習の時間や学活の授業で百人一首を取り上げる。(1 年) ② 社会学習体験学習で地域の企業について知るようにさせる。(2 年) ③ 進路決定に際して、希望の進学先を調べる過程で、その付近の土地柄などを知るようにさせる。(3 年)	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 79.0%で目標を 0.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 宇都宮の良さを学ぶ学習活動となるように、「総合的な学習の時間」の年計を見直し、指導の充実を図る。また、学校給食の郷土食や宮っコランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 社会体験学習で学んだことを生かし、自分にあった進路や生き方を目指して、社会の発展に尽くそうとする態度を育てる。

目 指 す 生 徒 の 姿	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上	① 各教科や総合的な学習の時間に、パソコン室や図書等を活用して、調べ学習を行ったり、ワープロソフトでレポートを作成したり、パワーポイントで発表する資料を作成させる。 ② 技術・家庭科の授業のオリエンテーションで、I C T 機器の正しい活用の仕方を指導する。 ③ 総合的な学習の時間のオリエンテーションで、図書等の正しい活用の仕方を指導する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 83.7%で目標を 13.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 全教科の授業で生徒が I C T や図書等を活用するよう働きかける。 授業参観や発表会などにおいても、生徒が I C T を活用する場面を与える。 また、情報モラル教育を充実させたり、タブレットパソコンを、普通教室や多目的ホールで活用するよう情報教育主任が整備する。
	○A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 運動会の高齢者参加種目において、しっかりと応援することで、日頃の感謝を伝えられるようにする。 ② 地域の老人会運動会に、生徒へボランティアとしての積極的な参加を呼びかける。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.8%で目標を 7.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 学習ボランティアの方と交流する機会を大切に、感謝をする心をもたせる。 道徳の授業で思いやりの心をはぐくみ、地域に住む高齢者の方々と接する際に、率先していたわる気持ち表すことができるよう指導する。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 75%以上	① 牛乳パックやプラスチックごみ、リサイクルボックスの設置を通して、リサイクルに関心を高める。 ② 緑化委員会による花壇の整備、中庭の環境向上や、地域協議会と連携したマツのこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ③ 避難訓練を年2回行い、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。 ④ 総合的な学習の時間において地域の環境についての調査や、国際的な環境問題についての課題研究を行い、環境に対する生徒の関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 66.5%で目標を 8.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 環境教育の年計を見直し、「持続可能な社会」について、教職員の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連づけることで、生徒にも身近な課題として意識させる。 緑化・給食・美化・防災など生徒会の委員会活動において各委員会の活動でさらに啓発できるようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別な支援を必要とする生徒について、教育相談・特別支援教育部会で継続的に状況を共有していく。 ② 心配な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。 ③ かがやきルームや適応支援教室、日本語教室の適正な運用を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標を 20 ポイント上回った。 【次年度の方針】 具体策を実施したことで、かがやきルーム、適応支援教室、日本語教室の利用生徒のよい変容が見られ成果が上がっていることから、次年度も継続した取組を目指す。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① いじめアンケートを年 4 回実施し、いじめの早期発見、早期解決をするともに、未然防止に努める。 ② 生徒朝会や学年集会において、いじめ根絶に向けたクラスでの話し合いを行い、スローガンを作成し発表をする。 ③ 保護者会や学校・学年・生徒指導により・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 95.0%（昨年度より 3.2 ポイント↑）で目標を 5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 本年度は「いじりといじめのちがいを」について学級で考えさせる活動を通して、何をより深く考える姿が見られ、いじめの未然防止につながった。次年度もいじめが許されない行為であることを徹底して指導し、いじめ根絶につなげていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 85%以上	① クラスの係活動や当番活動、授業中の発表の機会などに生徒の良さを見出し、称賛することで、生徒の自己肯定感を高める。 ② 保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標を 15 ポイント上回った。 【次年度の方針】 本年度の取組を継続するとともに、教職員間で生徒の良い面を伝えあい共有し、生徒を称賛することで、生徒の自己肯定感を高め、不登校を生まない学級経営を目指す。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 日本語指導に係る母語指導者や日本語ボランティアの配置や日本語指導に係る教材の準備をする。 ② 外国人生徒の学習・生活体験等について学級担任や日本語教室担当指導教員、管理職、学年主任や学年の教員がケース会議を開くなどして連携し、共通理解を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標を 20 ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も、今年度の取組を継続し、外国人児童生徒等の実態に応じてケース会議などを開くことにより適切な支援が行えるように対応していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学校行事では、生徒会活動を中心に生徒の自発的・自治的活動を取り入れて、指導に当たる。 ② 教師から積極的にあいさつをして、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。 ③ 生徒の活動の様子をホームページや各種たよりなどで積極的に発信していく。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 87.8%（昨年度より 5.1 ポイント↑）で目標を 2.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒会活動をより活性化するために、生徒の自発的な活動を伸ばすよう指導する。その際、生徒の頑張りを生かして、教師が認め励ましていく活発な活動にしていく。 また、学校全体がさらに明るい雰囲気となるような諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 生徒の活動の様子をホームページや各種たよりなどで積極的に発信していく。
	○A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上	① 授業では「本時の目標」を明確にし、「振り返り」を行うことで、生徒に達成感をもたせ、分かる授業の展開を図る。 ② ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動や ICT を活用した視覚的な活動を通して、きめ細かな指導を図る。 ③ 英数では、年間を通して習熟度別学習や少人数学習を取り入れ、きめ細かな指導を図る。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 89.1%（昨年度より 3.9 ポイント↑）で目標を 0.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 「めあての提示と学習の振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業公開や教科全員による授業研究会を行ったり、ICT教材活用の研修会を実施したりすることで、教師の授業力向上を目指す。 テスト前に補習形式の質問教室を実施し、個別の指導にあたる。

目 指 す 学 校 の 姿	A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 教育課程上の学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解のもと職員全員が協力して実行する。 ② 生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応を図るために、SC、MS、SCMと担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力取組を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 89.8% (昨年度より 4.1 ポイント↓) で目標を 9.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員の共通理解のもと学校行事などに取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。 生徒理解や配慮を要する生徒の対応においても、さらにチームで取り組んでいく。
	A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 出退勤記録の入力やリフレッシュデーにより、勤務時間の意識化を図るとともに、諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ② 校務運営委員会や職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 81.6% (昨年度より 2 ポイント↑) で目標を 1.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、勤務超過時間が 60 時間を超える教職員に業務の効率化を呼びかける。 諸会議等の計画的・能率的運営をさらに推進する。
	○ A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上	① 乗り入れ授業やあいさつ運動、小 6 年生の中学校訪等を実施し、小中交流の機会をつくる。 ② 地域学校園教職員研修の教科部会を年 3 回実施し、教科指導力向上に向けた取組を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100% (昨年度より 6.1 ポイント↑) で目標を 30 ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員・地域住民に比べ、実際に参加している生徒やその保護者の数値が低いのは、「小中一貫」「地域学校園」事業として行われる事業だとの認知度が低いからだと考えられる。取組は継続しつつ、丁寧な PR 活動を加えることで、認知度を高めたい。

目 指 す 学 校 の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域コーディネーターとの連携を図り、図書や学習活動等のボランティアなど、地域人材を活用した諸活動を推進する。 ② 教育活動における地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.9%（昨年度より 4.1 ポイント↓）で目標を 15.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 梅ジャムづくりや清原の杜キャンプ、松の木のかも巻きなど地域コーディネーターと連携した学校教育の充実を図る。 「清原の杜」の整備と活用に向けた地域人材の活用を検討する。 学校だよりやHPで発信するとともに、校内掲示板に掲示する。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 地域の肯定的回答 80%以上	① 清原中学校魅力ある学校づくり地域協議会の協力を得て、学習ボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。 ② 地域協議会だよりで学校の取組や生徒の様子などの情報を発信してもらう。	B 【達成状況】 地域住民の肯定的回答は 93.8%（昨年度より 0.9 ポイント↓）で目標を 13.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 地域連携教員が主務者となり、地域や家庭との連携を充実させる。 学習支援ボランティアの参画が可能な教科をさらに検討し、地域コーディネーターと連携し学校教育の充実を図る。 学校だよりやHPを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上	① 防犯カメラで、来校者をチェックするとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ② 月1回の安全点検を行い、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。 ③ 台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標を 20 ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。 安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。 災害発生時には、本校が避難場所になるので物品保管場所（北倉庫）等の周知徹底を図りたい。

目指す学校の姿	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上	① ICT 機器が使いやすくなるよう、職員室の棚に書画カメラや DVD プレーヤー、CD ラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。 ② 必要図書アンケートを教職員や生徒に行って希望図書の購入したり、総合的な学習の時間に活用しやすいようにテーマ別にコンテナに分けて置いたりする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 83.7%で目標を 13.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 アンケートにより、教諭や生徒が必要とする図書を購入する。合唱コンクールの練習用 CD プレーヤーや ICT 機器がすぐ使えるようにケーブルやリモコン等を整備する。
本校の特色・課題等	○ B1 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 生徒会学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを毎日行う。未提出の生徒へは、担任が学習の仕方等を個別に指導にする。 ② 年間 4 回、優秀な自主学習ノートの展示を行い、学習の仕方を共有する。 ③ 生徒会学習委員会が、年間 4 回、毎日提出した生徒を表彰し、称賛する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.5%で目標を 7.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 家庭学習の習慣化に対する指導を継続するとともに、教科の授業のまとめの際に、重要語句や計算の仕方などの復習のやり方を示すなど、生徒が家庭学習に取り組みやすくなるよう工夫をしていく。
	B2 生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒会緑化委員会による花壇の整備を行うことで、中庭の緑化環境を向上させ、緑化委員の取組として周知する。 ② 5 月に学年ごとに校内クリーン活動、8 月に P T A と合同の校内クリーン活動、11 月に地域におけるクリーン活動などを行い、環境美化の意欲を高め、より主体的に活動が行えるように働きかけていく。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 緑化委員会の活動を継続するとともに、校内クリーン活動の運営の仕方を見直し、「清原の杜」の整備を目的に生徒一人一人の活動を活性化させる。 本校の特色ある取組として、これらの活動の様子を写真入りのポスター等で周知していく。

本校の特色・課題等	○B3 学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように、交通ルールやマナーを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように、交通ルールやマナーを守るよう指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上	① 交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況および危険個所の把握に努める。 ② 部活動終了後の日々の下校指導や、PTAの年間を通した登校指導、冬季における下校指導、年2回の自転車点検を行うことで、安全な登下校ができるよう指導する。 ③ 交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。 ④ 交通事故が発生した際は、教職員が現場に向いて現状確認と適切な対応処置を行い、再発防止に向けて全生徒に指導を行う。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は96.5%で目標を11.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き、年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況及び危険個所等の把握に努める。 交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行う。LRT工事における情報を生徒や保護者に周知したり、警察への協力をお願いしたりして、生徒の登下校時の安全確保に努める。
------------------	---	--	----------	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート85項目において、38項目が昨年度からの継続項目で、47項目が新規項目である。昨年度と比較可能な項目は36項目で、その内22項目で昨年度よりも肯定的回答の割合が上回り（100%→100%も含む）、14項目で下回った。また、市の中学校平均を上回った項目は、教職員が25項目中22項目、保護者が19項目中2項目、地域住民が11項目中5項目、生徒が20項目中12項目となり、合計75項目中41項目であった。

特に、改善や良さが見られた項目と課題がある項目を以下ようにまとめた。

次年度も引き続き、課題改善に向けた取組を継続していきたい。

「1」成果

（1）昨年度との比較から、特に改善が見られた項目

○① A1「児童生徒は、進んで学習に取り組んでいる」

〔教職員：98.0%（24.5P↑） 保護者：88.9%（11.3P↑） 生徒：89.1%（2.7P↑）〕

・教職員、保護者、生徒ともに伸びが見られる。今後も、学習意欲を高めることができるような声かけや、生徒が活躍する授業となるような話合いや発表の場面を取り入れた授業の工夫を推進していく。

② A3「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」

〔教職員：93.9%（10.2P↑） 保護者：87.9%（8.1P↑） 地域住民：100%（→） 生徒：89.1%（6.8P↑）〕

・全体的に上回った。特に、生徒は3年連続で上昇しており、決まりやマナーを守って生活していると考えている。学校全体としても決まりやマナーを守った落ち着いた雰囲気になってきているので、それを継続できるように指導にあたっていく。

③ A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」

〔教職員：100.0%（3P↑） 保護者：71.2%（1.2P↑） 地域住民：84.6%（8.7↓） 生徒：95.0%（3.2P↑）〕

・生徒が3年連続で上昇している。教職員が教育相談やいじめアンケートの実施などでいじめ解消に向けて熱心に指導している姿から、生徒は、いじめが許されない行為であることを指導しているのとらえていると考える。今後も指導を継続し、いじめの根絶に向けて指導していく。

(2) 今年度の市の比較から、特に良さが見られた項目

① A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」

〔教職員：81.6% (14.1P↑)〕

・市の平均を大きく上回っている。今後も、出退勤記録の打刻や学校開錠者・施錠者記録を呼びかけ、勤務時間を意識して働く教職員の増加を目指していく。また、勤務時間外の電話自動音声を設定したことで、残業時間に集中して業務に取り組むこともできている。

○② A21「学校は、小中一貫・地域学校園の取組を行っている」

〔教職員：100% (8.2P↑) 保護者：88.9% (1.6P↑) 地域住民 100% (1.5P↑) 生徒：78.3% (0.3P↑)〕

・すべての対象において市の平均を上回っている。教職員・地域住民の100%に比べ、実際に参加している生徒や保護者の数値が低いのは、「小中一貫」や「地域学校園」事業だとの認知度が低いからだと考えられる。取組は継続しつつ、丁寧なPR活動を加えることで認知度を高めたい。

「2」課題

(1) 昨年度との比較から、努力を要する項目

① A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」

A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童生徒の育成に取り組んでいる」

〔教職員 95.9% (4.1P↓) 保護者 85.2% (3.5P↓) 地域住民 93.8% (0.9↓) 生徒 82.8% (0.3P↓)〕

・目標指標は達成したが、全対象で昨年度を下回った。次年度は、地域コーディネーターと連携した学校教育の充実を図りながら、「清原の杜」の整備と活用に向けた地域人材の活用を検討していく。

(2) 今年度の市との比較から、改善が必要な項目

○① A2「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」

A11「生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている」

〔教職員：83.7% (1.2P↓) 保護者：81.9% (2.0P↓) 地域住民：85.7% (11.5↓) 生徒：87.8% (0.1P↓)〕

・生徒の肯定的回答80%の目標指標は達成したが、全ての対象で市の平均を下回っている。本校生徒は思いやりの心をもっているが、他の人に積極的に伝えていくことは苦手な生徒が多いように見える。今後も道徳で思いやりの心を育む授業を展開し、様々な場面においても高齢者に対していたわりの態度を示せるように指導していく。

② A10「生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している」

A25「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている」

〔教職員：83.7% (5.8P↑) 保護者：49.2% (9.6P↓) 生徒：61.0% (5.9P↓)〕

・教職員は上回っているが、保護者・生徒ともに下回っている。今後は、教師自身の活用はもとより、生徒が課題を解決するために効果的なICTを選び、必要な情報を収集し、表やグラフを組み合わせた資料を作成するなど、ICTを活用した授業を推進していく。また、パソコン教室のタブレットが整備されたので、次年度は生徒活用に向けた研修会等を実施する。

○③ A18「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」

〔教職員：98.9% (1.2P↓) 保護者：75.0% (1.9P↓) 生徒：89.1% (0.8P↓)〕

・昨年度の生徒の回答85.2%よりは向上したが、目標指標に僅差で達しておらず、全体的にも市の平均を下回っている。今後も授業公開や教科全員による授業研究会、ICT教材活用の研修会を実施することで教師の授業力向上を図るとともに、分かる授業やきめ細かな指導による学力向上を目指していく。

「3」本校の特色・課題等の状況

- （１） B１「生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる」
〔教職員：98.0% 保護者：68.2% 生徒：92.5%〕
・ 自主学習ノート提出の呼びかけや、優秀な自主学習ノートの展示による学習の仕方の共有を図ったことにより、自主的に家庭学習に取り組む生徒が90%を超えた。
- （２） B２「生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる」
〔教職員：95.9% 保護者：77.5% 生徒：88.1%〕
・ 緑化委員による草花栽培活動を中心に、次年度は、本校の特色として「清原の杜」を整備する活動を通して次世代につなげようとする愛校心を育てる取組も考えていく。また、夏休み中の親子除草作業やクリーン活動などの運営の仕方を見直し、さらに活性させていく。
- （３） B３「学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように交通ルールやマナーを守るよう指導してくれる」
〔教職員：95.9% 保護者：90.3% 地域住民：81.3% 生徒：96.5%〕
・ 交通安全教室の実施や自転車に反射材をつけるなどの取組を通して、交通安全への意識が高まった。今後もより一層の交通マナーの向上が望まれ、登下校中の交通事故ゼロを目指していく。

7 学校関係者評価

（１）今年度の成果から

- ① 文武両道の生徒育成を目指してほしい。教師の指導力で、生徒の個性が発揮できる環境を整えてほしい。教員が自信をもって指導することが生徒に反映していると思う。先生方の頑張りに感謝します。
- ② 特に、柔道部の生徒たちのあいさつが素晴らしい。
下校時の見守り当番へのあいさつなど、校外でのあいさつが増えるとさらによい。
- ③ 今後も学校のいじめ対応はしっかりやってほしい。学校が「気付かなかった」ということがないように、指導してほしい。不登校を生まない取組や「いじめを許さない」というPRもなお一層するべきだ。

（２）今年度の課題から

- ① 地域の教育力を生かすためにも、まずは、大人からあいさつなどの声かけをするべきであろう。
子は親の鏡である。親学講座などを実施して、親も学ぶ機会を設定するのはどうか。
地域の国際交流イベントを生徒たちに紹介してほしい。外国籍の生徒の学習に配慮してあげたい。
- ② ICTや図書館を活用する授業を保護者に見てもらう機会をつくるとよい。生徒自ら情報発信情報モラルの指導が大切で、トラブルを起こしたり巻き込まれたりしないか心配である。
- ③ 分かる授業は、楽しい授業。身近な事柄から興味をもたせたり、活動させたりしながら学べるとよい。
英語の授業でALT活用や、ロールプレイを取り入れてみてはどうか。

（３）本校の特色から

- ① 緑に恵まれた学校の環境を活用することで、清原中の伝統を受け継いでいってほしい。
学校の緑豊かな風景や緑化活動を卒業生としても誇りに思っている。
今後も生徒に除草の仕方を指導して、さらにクリーン活動に取り組んでほしい。
- ② 交通マナーは継続的指導が必要である。（横断歩道の渡り方・並列運転の禁止）
- ③ B１～３は保護者の理解を得ながら、学校の特色としてこのまま進めてほしい。

（４）その他のご意見

- ① 宇都宮の良さを「百人一首大会」や「社会体験学習」だけで知らせるのは、難しいのではないかな。
宇都宮の住みよさや環境、LRTなども学ばせることで、良さが伝わるのではないかな。
- ② PTAの下校指導の保護者が目立つように、ベストやタスキが着用できるとよい。
- ③ 調理室の包丁研ぎをボランティアでやれるとよい。
- ④ 全体的に学校評価の数値が高く、素晴らしい。保護者の数値が低いので、もっとアピールをするとうい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

活力ある学校づくり，活力ある生徒の育成を目指した教育活動の工夫

前年度との比較や今年度の市の平均との比較から，アンケートの肯定的回答の割合が上回っている項目が多数見られているものの，保護者や地域住民の回答には課題があり，保護者会での公開授業や各種学校行事において，生徒の活躍する姿を保護者や地域住民等に参観してもらったり，学校ＨＰ等，様々な機会や方法で生徒が生き生きと活動する様子を見てもらったりする工夫が必要である。

また，知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成は，活力にあふれ安心して学べる学校においてこそ実現できるのだから，生徒，教職員，保護者，地域のそれぞれが良さを発揮し，充実した教育環境を目指していく必要がある。そこで次年度は，以下の項目に重点を置き，それぞれの教育活動を工夫して，地域に根ざした開かれた学校づくりを継続して進めていく。

○（１）確かな学力を育む教育の推進

「A18 教職員は，分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。」

「A10 生徒は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」を拡充項目とする。

ここでは，主体的・対話的で深い学びの実現に向けて，授業改善による授業公開や授業研究会，研修会等を実施し，教師の授業力向上を図ることをねらいとする。

また，生徒が学びの中で情報を収集・整理したり，自分の考えを発信したりするＩＣＴや図書を活用した教育活動を充実させ，思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。基礎・基本の習得を大切にしながらも，生徒が中心となる授業の工夫と分かる授業の実践は，学習指導のスキルアップとなると考える。

さらに，定期テスト前の質問教室を実施したり，家庭学習の「質の向上」と「習慣化」を呼びかけたりすることにより，一人一人に応じた指導を行い，生徒の学力向上を目指していく。

○（２）豊かな心を育む教育の推進

「A2 生徒は，思いやりの心をもっている。」

「A11 生徒は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」

「A9 生徒は，宇都宮の良さを知っている。」

「A17 学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。」を拡充項目とする。

ここでは，教科や学級活動，学校行事などにおいて，グループ活動を取り入れ協働的に学ぶことで，自分自身はもとより他者を思いやる大切さを理解させることをねらいとする。また，学習ボランティアの方々との交流や地域協議会の各種行事への積極的参加，清老連運動会やとびやま祭りのボランティア活動を通して，地域とのつながりを深めたり，総合的な学習の時間における宇都宮の良さを学ぶ教育活動を充実させたりして，郷土への愛情も育んでいく。

さらに，学校生活全般において教職員が意図的・計画的に，生徒の頑張りや取組の良さを認め，励まし，称賛する場面を積極的に設けることで，生徒の自己肯定感を高め自身の有用感を実感できるようにする。

これらを推進することで，教師の学級経営力や人間的な対応力などの資質・能力が高まるとともに，生徒の居がいのある学校づくりにつながると考える。そのために，生徒が活躍できるような教育活動をさらに工夫し，豊かな体験を通して豊かな感性を育んでいく。

○（３）地域と連携・協働した学校づくりの推進

「B2 生徒は，草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。」を拡充項目とする。

ここでは，地域協議会の方々との「松のこも巻き・こも外し」，「花の苗植え」などの緑化活動や「除草活動」，「落ち葉掃き」などの活動を通して，自然愛護の精神や愛校心を育むことをねらいとする。

また，市内中学校で最も広い敷地と恵まれた自然を「清原の杜」として継続して整備し，教科の授業や生徒会活動とも関連づける教育活動を工夫し，活力ある生徒の育成を目指す。

さらに，梅やブルーベリー，リンゴの収穫や，地域の教育力を生かした「清原の杜体験キャンプ」を通して，生徒・教職員・保護者が「地域とともにある学校づくり」に参画するという意識を高めることで，特色ある学校づくりを推進していく。